

平成27年度第1回

中小企業景況調査報告書

平成27年 4月～ 6月期 報告
平成27年 7月～ 9月期 予測

千葉県商工会連合会

中小企業景況調査報告書

平成27年4月～6月期

調査要領

1. 調査対象

(1)対象地域

11 商工会地域 大多喜町商工会、袖ヶ浦市商工会、旭市商工会、野田市関宿商工会、南房総市朝夷商工会、印西市商工会、大網白里市商工会、成田市東商工会、東庄町商工会、富津市商工会、長柄町商工会

(2)対象企業数 165 企業(11 商工会×15 企業)

(3)回答企業数 165 企業

2. 調査対象期間 平成27年4月～6月を対象とし、調査期間は平成27年5月22日～6月1日である。

3. 調査方法 商工会の経営指導員による訪問面接調査。

(1)産業別構成

業種	回答企業数	構成比(%)
製造業	28	17.0
建設業	29	17.6
小売業	45	27.3
サービス業	63	38.2
合計	165	100.0

(2) 業種別構成

① 建設業

業種	回答企業数	構成比(%)
総合工事業	14	48.3
職別工事業	12	41.4
設備工事業	3	10.3
合計	29	100.0

② 製造業

業 種	回答企業数	構成比(%)
食料品製造業	8	28.6
飲料・たばこ・飼料製造業	1	3.6
木材・木製品製造業(家具を除く)	2	7.1
家具・装備品製造業	1	3.6
パルプ・紙・紙加工品製造業	1	3.6
なめし革・同製品・毛皮製造業	2	3.6
金属製品製造業	4	14.3
はん用機械器具製造業	1	3.6
生産用機械器具製造業	1	3.6
業務用機械器具製造業	1	3.6
その他の製造業	6	21.4
合 計	28	100.0

③ 小売業

業 種	回答企業数	構成比(%)
各種商品小売業	1	2.2
織物・衣服・身の回り品小売業	6	13.3
飲食料品小売業	22	48.9
機械器具小売業	4	8.9
その他小売業	12	26.7
合 計	45	100.0

④ サービス業

業 種	回答企業数	構成比(%)
一般飲食店	21	33.3
宿泊業	2	3.2
運送業	3	4.8
自動車整備業	13	20.6
洗濯・理美容業	12	19.0
その他のサービス業	12	19.0
合 計	63	100.0

本報告書中の[DI 値]とあるのは、ディフュージョン・インデックス(景気動向指数)の略で、各調査項目についての増加(好転、上昇)企業割合から、減少(悪化、低下)企業割合を差し引いた値を示すものである。

I. 県下中小企業の景況

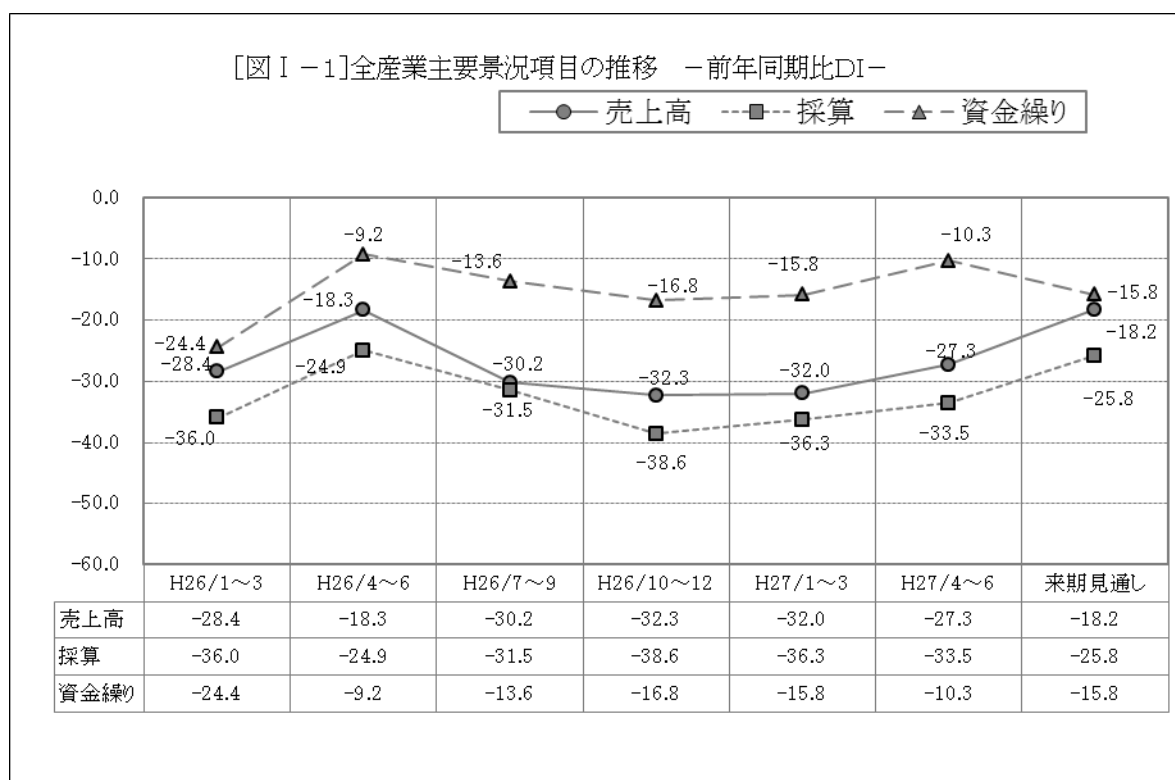
“非製造業中心に業況は改善へ”

千葉県商工会地区の平成 27 年 4～6 月期中小企業景況調査結果によると、産業全体の景況感は[図 I-1]に示したとおり、今期売上高 DI 値は-27.3、前期（平成 27 年 1～3 月期、-32.0）比で 4.7 ポイント増、同採算 DI 値は-33.5、前期（-36.3）比で 2.8 ポイント増、同資金繰り DI 値は-10.3、前期（-15.8）比で 5.5 ポイント増とマイナス幅は縮小しており、少しずつではあるが、景況感は改善している。

また、前年同期（平成 26 年 4～6 月期）調査と比較してみると、売上高 DI 値は、前年同期（-18.3）比で 9 ポイント減、採算 DI 値については、前年同期（-24.9）比で 8.6 ポイント減、資金繰り DI 値は、前年同期（-9.2）比で 1.1 ポイント減、いずれもマイナス幅が拡大している。前年は、製造業中心に円安のプラス面での影響が大きく、需要が拡大していたが、さらなる円安により、原材料高騰が深刻化していることが原因と考えられる。

今期は、大幅な賃上げが実施されたことで、消費マインドが回復傾向にあり、小売業、サービス業中心に回復傾向にある。また、建設業についても公共工事を中心に受注が回復傾向にあり、売上高 DI 値は改善している。一方で、円安による原材料等の高騰や人手不足のため、採算 DI 値については、製造業、建設業で悪化しており、コスト上昇分を転嫁できない収益構造が浮き彫りとなっている。














また、来期（平成 27 年 7～9 月期）については、製造業、小売業、サービス業については、個人消費回復の期待感からプラスの見通しとなっているが、建設業については、全体としては、マイナスの見通しとなっている。



II. 各産業の景況

1. 製造業の景況

“需要の停滞により収益構造はさらに悪化”

	今期の景況	来期の見通し	
売上高			 :DI 値 +30～
採算			 :DI 値 +10～+30
資金繰り			 :DI 値 +10～-10
総合			 :DI 値 -10～-30
			 :DI 値 -30～

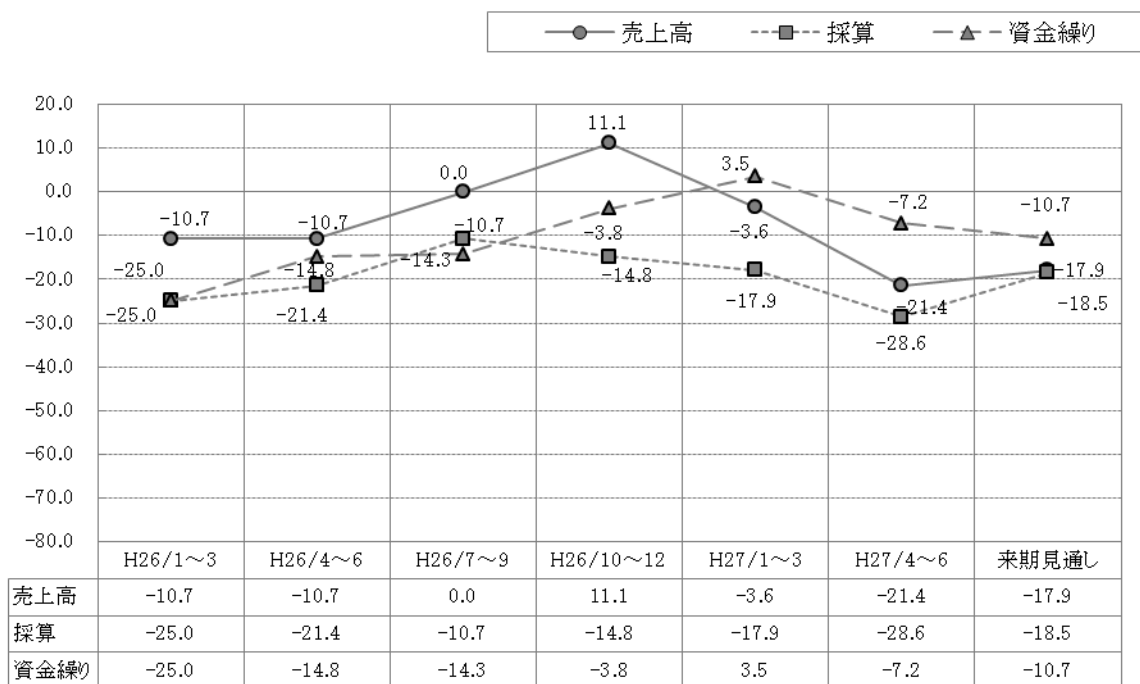
千葉県商工会地区における製造業の景況は、受注残・引合い数ともに、前期に比べ減少しており、売上高 DI 値は-21.4 ポイント、前期と比べると 17.8 ポイント減少している。設備操業度、受注量ともに減少しており、需要の停滞が経営上の大きな問題点となっている。

一方で、原材料高騰の問題は継続しており、単価の低下・上昇難と重なり、収益構造は悪化。コスト上昇分の価格転嫁は緊急の課題となっており、採算 DI 値は 3 期連続で悪化している。なお、資金繰り DI 値については 4 期連続で改善していたが悪化に転じた。

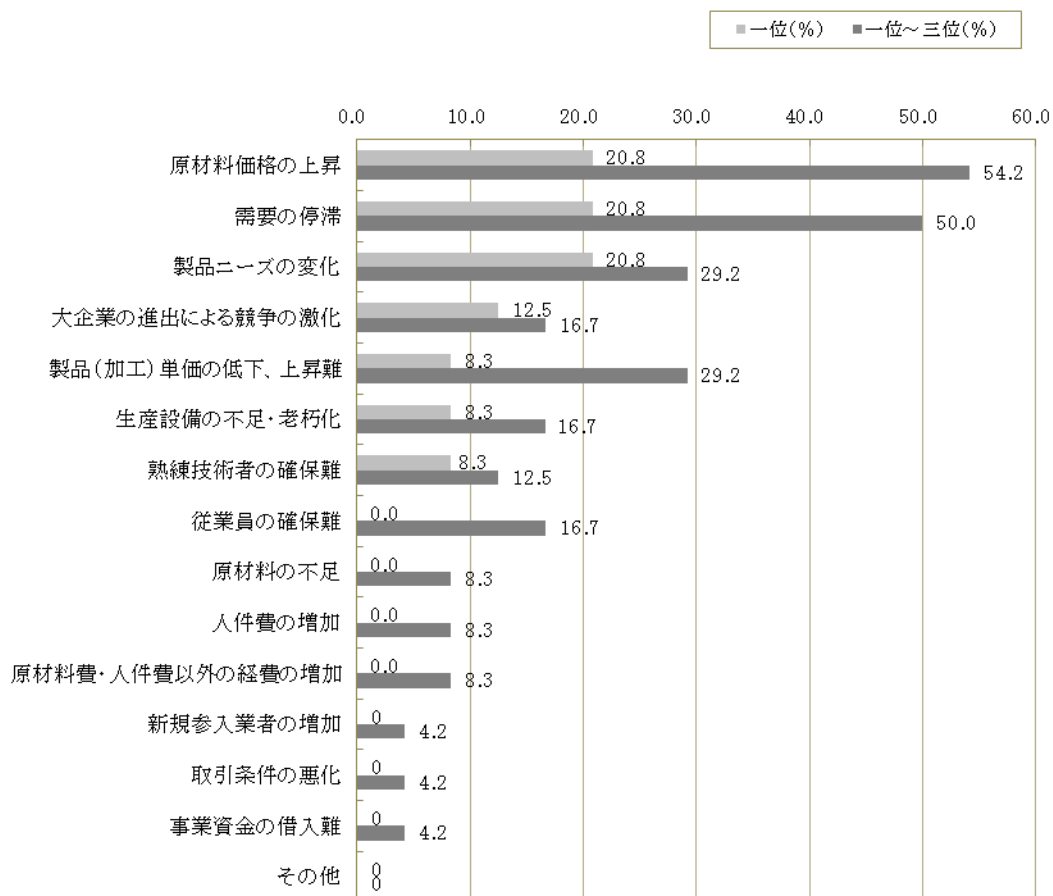
来期については、設備関連の業種を中心に需要回復が見込まれることから、売上 DI 値、採算 DI 値については改善する見通し、資金繰り DI 値については悪化の見通しとなっている。

今期は新規設備投資については 3 社が実施。内訳は、生産設備の導入が 3 社となっている。また、来期計画は 4 社が予定しており、生産設備 2 社、工場建物 1 社、その他 1 社となっている。

[図II-1] 製造業主要景況項目の推移 - 前年同期比DI -
















[図II-2] 製造業 経営上の問題点の状況



2. 建設業の景況

“売上高は改善するが、先行きの不透明感が強まる”

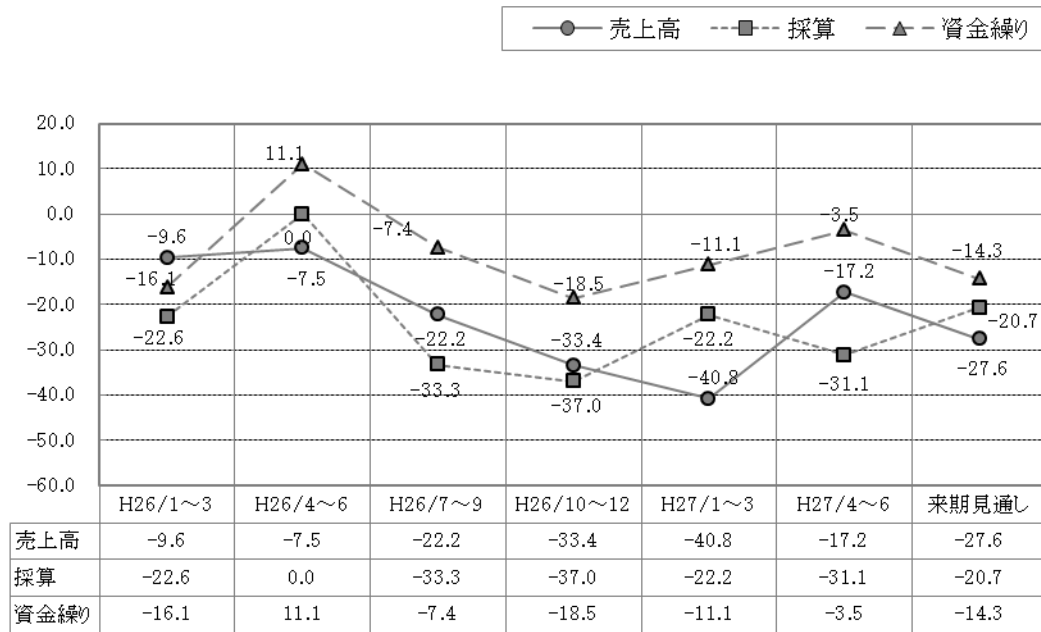
	今期の景況	来期の見通し	
売上高			 :DI 値 +30～
採算			 :DI 値 +10～+30
資金繰り			 :DI 値 +10～-10
総合			 :DI 値 -10～-30
			 :DI 値 -30～

千葉県商工会地区における建設業の景況は、公共工事関連中心に受注額は増加している。このため、売上高 DI 値は-17.2、前期（-40.8）比で 23.6 ポイントマイナス幅が縮小。また、採算 DI 値については-31.1 で、前期（-22.2）比で 8.9 ポイントマイナス幅が拡大。資金繰り DI 値は-3.5 で、前期（-11.1）比で 7.4 ポイントマイナス幅が縮小している。今期については、受注が増加しており、全体的に業況は改善しているものの、業種や業態によるバラツキが確認できる。

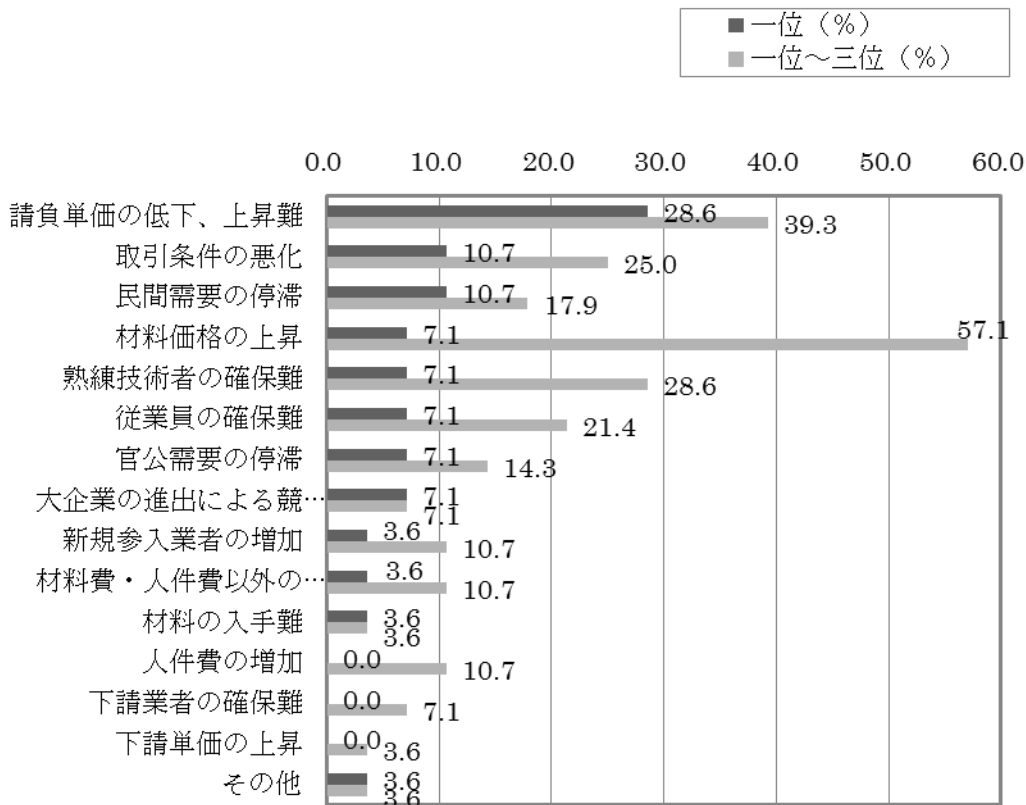
来期については、売上高 DI 値、資金繰り DI 値についてはやや悪化する見通しで、引合い数、未消化工事高の減少傾向が継続していることから、厳しい状況は続く見通しである。また、最も多くの企業が請負単価の上昇難を経営上の大きな問題点としており、材料価格の上昇、取引条件の悪化、民間需要の停滞も問題にする企業は多く、採算面・資金繰り面については、悪化が予測され、注意が必要である。

新規設備投資については、3社が実施しており、車両・運搬具、付帯施設を導入。来期計画は4社で、土地、建物、建設機械、車両・運搬具、付帯施設、OA機器と福利厚生施設等の導入を予定、1社で複数設備導入するケースもあり、設備投資は増加している。

[図Ⅱ-3]建設業主要景況項目の推移 - 前年同期比DI-
















「図表Ⅱ-4」建設業 経営上の問題点の状況



3. 小売業の景況

“消費マインド改善により、景況は持ち直しの動き”

	今期の景況	来期の見通し	
売上高			 :DI 値 +30～
採算			 :DI 値 +10～+30
資金繰り			 :DI 値 +10～-10
総合			 :DI 値 -10～-30
			 :DI 値 -30～

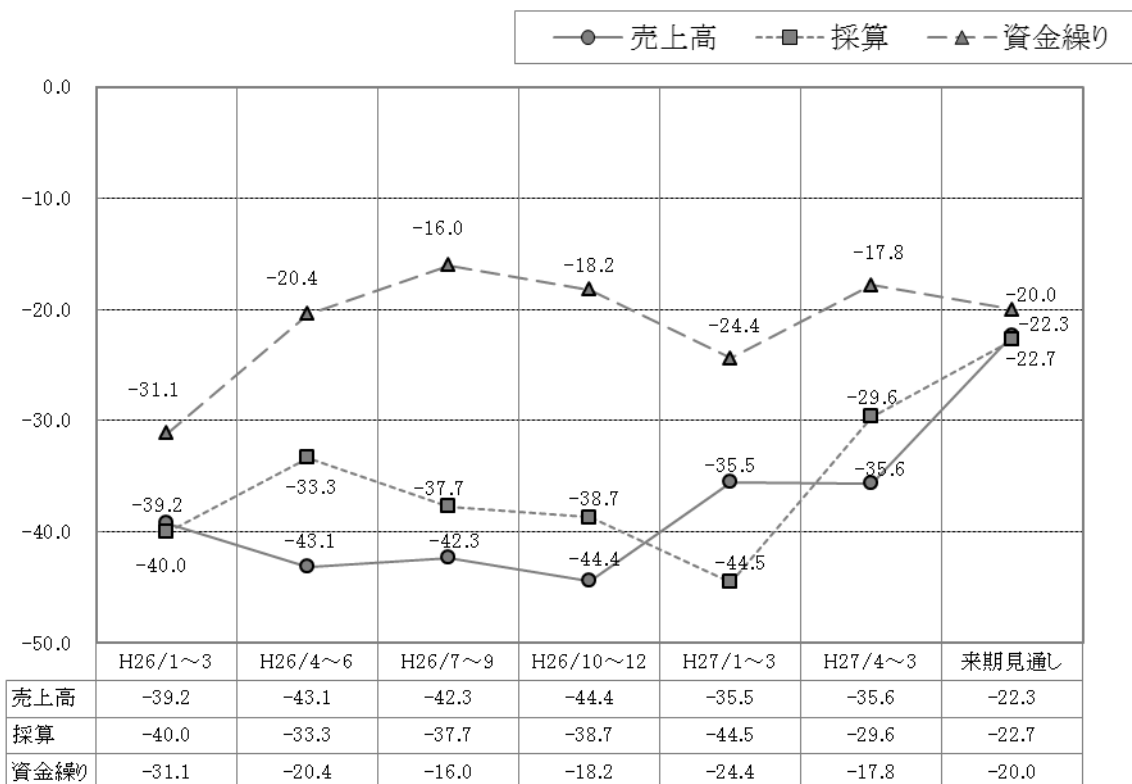
千葉県商工会地区における小売業の景況は、売上高DI値は-35.6で、前期(-35.5)よりも0.1ポイントマイナスでほぼ変わらなかった。今期は、賃上げが実施されたこともあり、消費マインドは改善傾向にあり、競合等との競争は激化しているものの、採算DI値、資金繰りDI値については、マイナス幅を縮小している。

来期については、プレミアム商品券への期待から売上高、採算は改善する見通しもあり、景況が回復の動きにある。

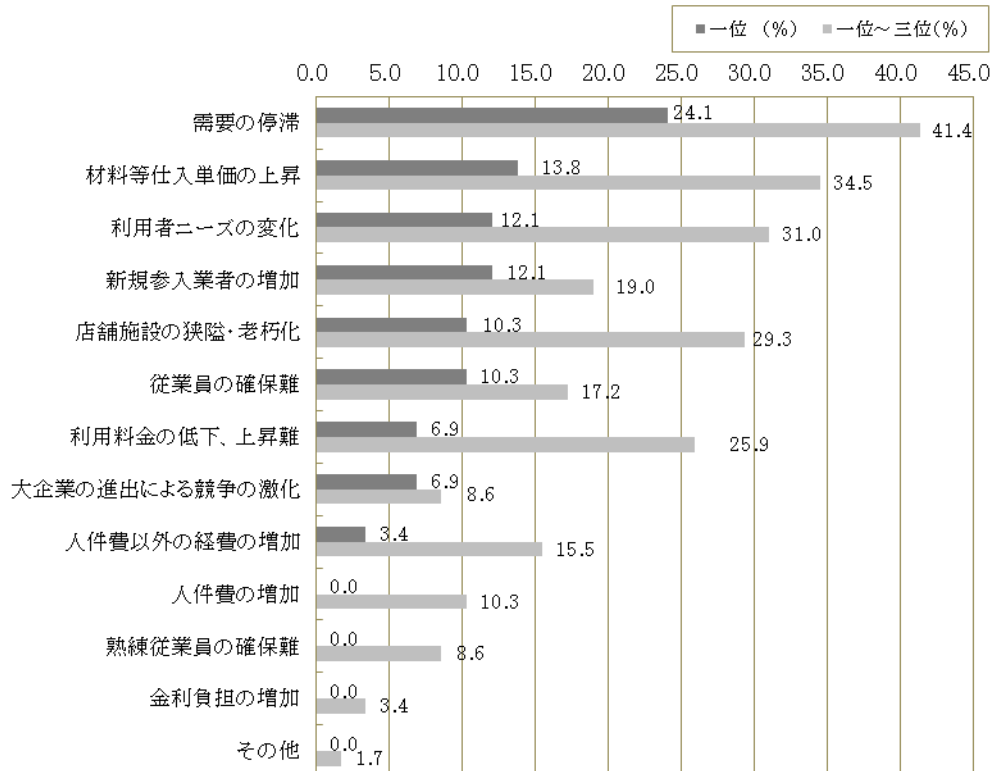
また、大型店・中型店の進出による競争の激化、購買力の他地域への流出、消費者ニーズの変化については、相変わらず多く事業者が問題と感じており、顧客の囲い込みや新規顧客の開拓が引き続き課題となっている。

新規設備投資については、3社が実施。土地、販売設備、車両運搬具を導入している。また、来期計画は10社で、店舗、販売設備、車両・運搬具とOA機器等の導入を予定しており、設備投資は増加傾向にある。

[図Ⅱ-5]小売業主要景況項目の推移 - 前年同期比DI-
















[図Ⅱ-6]小売業 経営上の問題点の状況



4. サービス業の景況

“業況の回復傾向は続くも、採算面の改善が課題”

	今期の景況	来期の見通し	
売上高			 :DI 値 +30～
採算			 :DI 値 +10～+30
資金繰り			 :DI 値 +10～-10
総合			 :DI 値 -10～-30
			 :DI 値 -30～

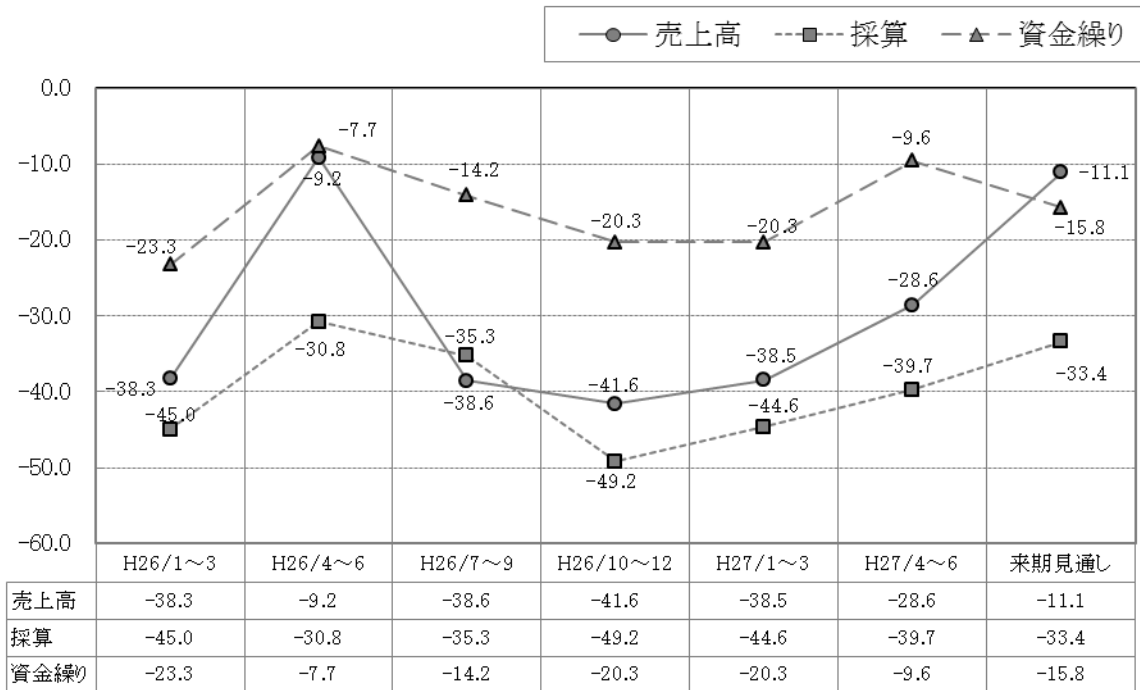
千葉県商工会地区におけるサービス業の景況は、小売業同様、賃上げの影響が大きく、売上高 DI 値、採算 DI 値ともにマイナス幅は縮小している。前期から引き続き、客単価の減少傾向と材料等仕入単価の高騰によるコスト高もあり、採算 DI 値は-39.7で、前期（-44.6）比で 4.9 ポイントのマイナス幅縮小に止まっている。

来期については、プレミアム商品券による消費拡大の期待感から、売上高 DI 値、採算 DI 値については引き続き改善する見通しである。

一方で、需要の停滞を経営上の課題とする事業者は相変わらず多く、利用者ニーズの変化、利用料金の低下・上昇難、材料等の仕入単価の上昇を経営上の問題点とする事業者も多い。回復の兆しはあるものの、本格的な回復には、収益構造の見直しや消費者ニーズに対応したサービス開発等経営力向上への取組みが必要である。

なお、新規設備投資は増加しており、8社が実施。土地、建物、サービス、車両・運搬具、付帯施設、OA 機器等を導入している。また、来期計画は7社で、建物、サービス、車両・運搬具、付帯施設等の導入を予定している。

[図Ⅱ-7]サービス業主要景況項目の推移 ー前年同期比DIー



[図Ⅱ-8]サービス業 経営上の問題点の状況

